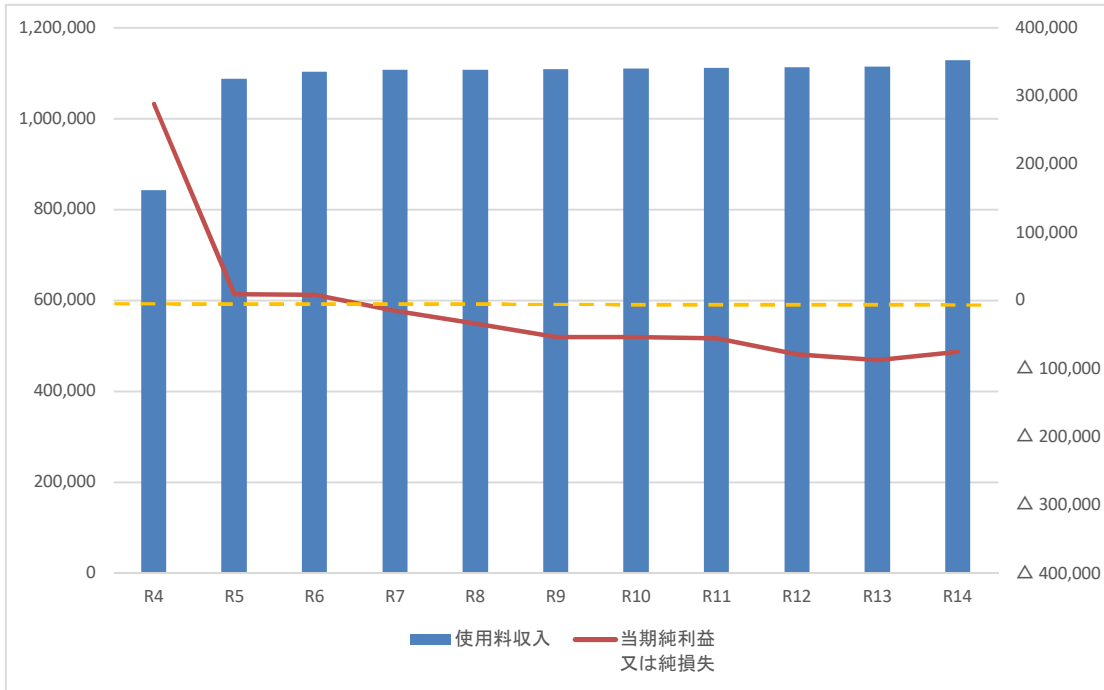


料金改定20%増の場合の損益試算(令和2年度実績ベース)

単位:千円(使用料収入)

単位:千円(当期純利益又は純損失)



グラフ(ア) 使用料収入と当期純利益又は純損失の推移(使用料収入28%増の場合)

表(イ) 使用料収入と当期純利益又は純損失の推移(使用料収入20%増の場合)※未審議

単位:千円

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
使用料収入	842,573	1,087,279	1,102,863	1,106,765	1,107,918	1,109,071	1,110,234	1,111,387	1,112,551	1,113,705	1,128,500
当期純利益 又は純損失	288,079	9,323	8,346	△ 15,444	△ 34,032	△ 53,990	△ 53,205	△ 55,383	△ 78,608	△ 87,369	△ 75,488

令和7年度以降、当期純損失となる。  
⇒計画期間内での黒字確保が保たれない。

※表(ウ)の一律30%増の下水道使用料改定を行った場合と比較して、使用料収入のみ変更した。  
審議済みの当初20%増試算が令和2年度予算ベースに対して、今回は令和2年度実績ベースに見直している。

表(ウ) 使用料収入と当期純利益又は純損失の推移(使用料収入30%増の場合)※審議済み

単位:千円

	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
使用料収入	842,573	1,173,476	1,190,133	1,194,139	1,195,376	1,196,613	1,197,863	1,199,100	1,200,349	1,201,589	1,217,520
当期純利益 又は純損失	288,079	95,520	95,616	71,930	53,426	33,552	34,424	32,330	9,190	515	13,532